露国文学の日本文学に及ぼしたる影響

特別
44
2090
(5)

露国文学と日本文学との比較

乳卿書

長谷川二葉亭氏述

露国文学が日本文学から受けた影響に就ては、平生に研究して居つて、で所々でも我々

聞いては見るが、何うも未だ疑つてこわといふ容子を
得られない、森鷗外氏にもこの話をした事があるが、
非常に興味を持たれて、自分も見物研究して見やうと
いつて居られた、單意味論上から見れば大に興味を
引て居るこの話は遺ないが、さればと言つてこれ〳〵が

とい小事が出て来ない、未だ自分も研究中に属する問題
であるから、詳細ふお話は又ゆつくり、今日本に異
く散在されて居るいろんなネツの時代の作品の結合と、
同
日々の生活の作家一般に知て少しばかりお話しやる。

誰も知らぬ事、他人の面前を異にして、
あるから、文字の長短にも大なる五種がある。一
体夢の見方などに於ては、
B
大きい誤りがあるのである。
今の日本の作者は、世間と
と問題に接触して、その

乗いなを解さうと思つて居る内、人々の中
一部を作らん、全船に互らうとする風がある、また
進び事業に著作に従ふ者がある。
フルゲ湾の時代の作あんれしては、不真面目である。
竹ガ子の雪重の作まはさうとするかつた、真面目に人と向

脇の毛船に乗つて不安しなた、ちあるから口をみるのの
やうに、ふる一気張りて仲才面の事は関ずを乗て居た
のいろいろ、又生活方の苦労は、何をいふも
後まで苦居て居つたのから、甚しい屋根を西氏に加

へた、せちかの所作は所作同様として孤安ーてんのん、文
字言は字九をりをり同様としん孤安しん、仮のにんと白
ら白ら清あるものとあるて記ましつしゞふつの小品
一篇はよく奴隷解放に力あったといはんてある作品
る、

わ近一篇のあに断乾堂の語と方丈もあらし、はし
一言乾一言のあに西化利亜へ逐放されたこもあった
わらる北海に迷行したり、西陣が西野仙ねとへ
しかし堅の影響をうけて勃発した西欧主義との摂戦

金等からりもあらうが、何方か直腸に入る間既の様な
感じがつたりもあるが、日に二度も三度も便所へ行くと
腹もあまりに人工的に働んで、良く消化せずに出て
中に、多量の血液も混じて居ると同じ感情にあれば完全
な排泄するのであらう、何れも手術をしてあるから、

人数の多いのであるから、中には昌厳寺の様な
拵いて居つた、西洋式に自宅でさせやうと考へて鮮にした、
多くは煙草盆と一寸の丸太ん棒であつた。
近い例が此の間病院で病状が解はらんが、既に

研究問題として大に研究しなければならぬ。文学者の立場に於て見ても、唯一人真面目に考へた人がまだまだたくさんある。成程研究問題は色々と考へられるとしても、何れにしてもくるとはいはぬ、又文学としん研究すべき価値ありやなやとまだまだ疑ひがあるかも知れないが、人生問題と

して研究することは何らであらう、うんどうの時代の作家の努力は、情もこれんまんど研究を進めん、而しながら、現代の高等文学は、ずつとその場を異にして居る而、新時代があらう。